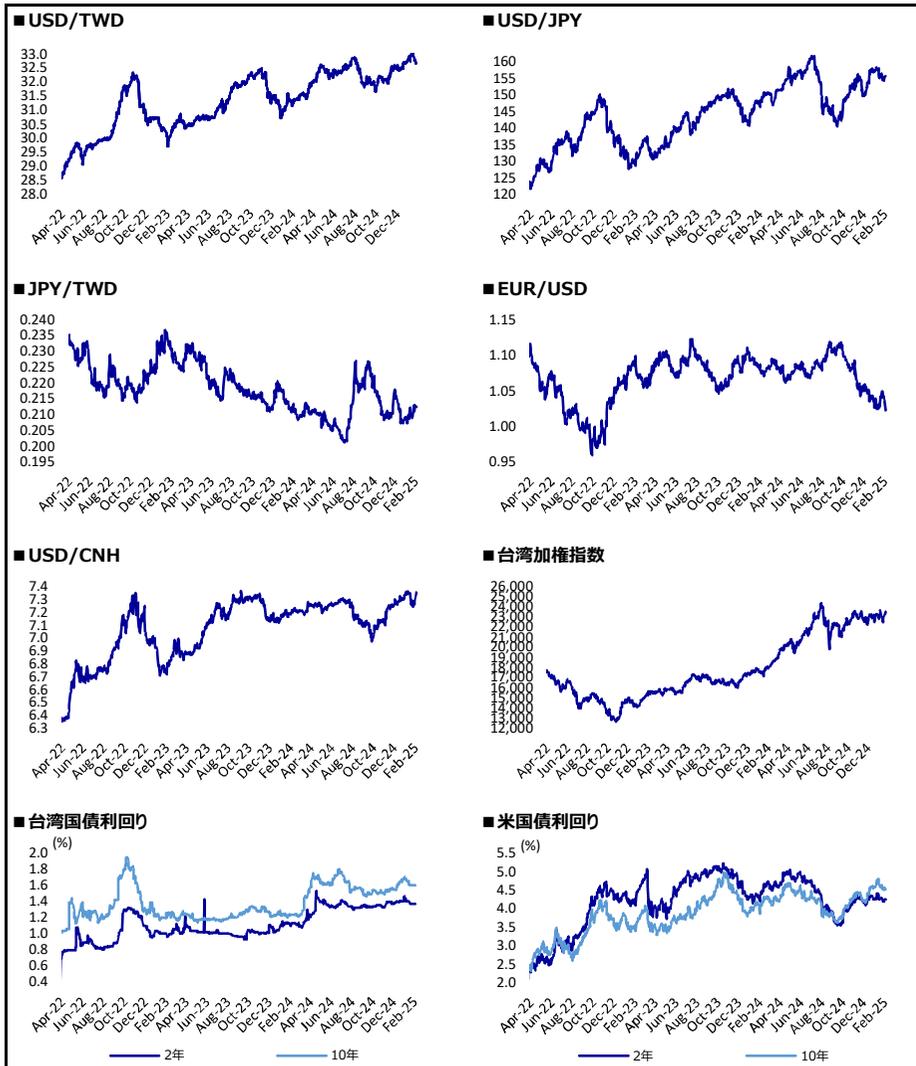


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初1/20は32.900でオープン後、トランプ米大統領就任前に、中国との関係改善が期待され、人民元の上昇とともに、ドルは売り優勢の展開。1/21は、輸出企業によるドル売りで一時32.650まで下落。しかし、トランプ政権はメキシコやカナダに対し、関税の引き上げを実施するとの報道が流れ、ドルは買い戻された格好。1/22は、人民元をはじめとしたアジア通貨の反発がやや弱まったため、ドル/台湾ドルは午後にかけて徐々に上昇し、最終的には32.774でクローズ。1/23は、台湾株式市場は休場となったため、為替市場は実需中心で取引高は前日比半分程度、終始32.70台後半で取引された。1/24の為替市場は引続き実需中心で取引高は減少。後場に入ると、輸出企業によるドル売りが強まり、最終的には前週比0.74%ドル安台湾ドル高の32.682で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は250.3億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初1/20は156.35でオープン後、トランプ米大統領は就任初日の関税発動回避の報道が流れ、ドルがほぼ全面安に、ドル円は一時155円台半ばまで下落。1/21は、関税をめぐる、トランプ発言により乱高下の展開となったが、海外時間にはドル安圧力が再燃、ドル円は概ね155円台半ばで安定に推移した一方、ユーロ円など主要クロス円は反発。1/22、トランプ大統領は対中関税や対ロシア関税及び制裁に言及したものの、市場の反応は限定的。早期関税発動に懐疑的な向きが増えている可能性でリスク許容度が改善され、円売り優勢の展開。1/23、トランプ大統領は対EUやカナダの関税発動を示唆したことに加え、OPECに対して原油価格引き下げを求めた。また、FRBへの金利引き下げの要請や上下院での減税措置可決の見通しにも言及、低金利と減税効果に対し米株は素直に好材料として受け止め、リスク許容度の増加で円売りが先行し、155円台後半から156円台前半まで値を戻した。1/24、日銀金融政策決定会合で25bpの利上げが発表されると、一時156.40台まで上昇。しかし、物価見通しが上方修正されたこともあり直後から反落、155.01まで値を下げた。最終的には前週比0.18%ドル安円高の156.02で先週の取引を終了。

今週の見通し

■USD/TWD 予想レンジ：32.800-33.200
今週のドル/台湾ドルは上昇を見込む。トランプ氏の関税政策や今週の雇用統計の発表を控え、ドルが買われやすいだろう。

■USD/JPY 予想レンジ：154.00-157.50
今週のドル/円は上昇を見込む。トランプ氏はカナダとメキシコからの輸入品に2.5%の関税、中国からの輸入品に10%の追加関税を2/4から課す大統領令に署名したことで、ドル/円は底値の堅い推移となるだろう。

今週の予定

2/3 (MON)	米1月ISM製造業PMI指数、中国市場休場
2/4 (TUE)	米12月製造業新規受注、中国市場休場
2/5 (WED)	米1月ISMサービス業PMI指数
2/6 (THU)	英中銀金融政策会合
2/7 (FRI)	米1月雇用統計

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。